


**府中地区保護司会だより**  
 第53号 発行 府中地区保護司会 会長 朝倉俊夫



**会長就任にあたって**

府中地区保護司会

会長 朝倉 俊夫



この度、高野佳子前会長の後任として府中地区保護司会会長の大役を努めさせて頂くことになりました。微力ではありますが、皆様のご支援・ご協力と関係諸機関各位のご指導を仰ぎながら努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、令和五年五月八日に新型コロナウイルス感染症が五類へと移行し、コロナ禍前の日常に戻りつつあります。三年間は会員同士の関わりも持てませんでした。ようやく対面での開催が可能となり、行事等も再開できると思っております。

今年度、府中地区保護司会として「社会を明るくする運動」の推進を目指しておりますが、地域住民の理解と協力を得て、効果的な活動を展開しなければなりません。行政をはじめ関係機関との連携を図りながら実現できるよう努力いたします。また、再犯防止推進のため、地域における立ち直り支援や府中市との連携の在り方等、犯罪者を出さない社会づくり、安全で安心して暮らせる地域づくりを念頭に努力していく所存です。

そして直近の課題としては保護司適任者の安定的な確保が重要であり、検討協議会・会員からの推薦等で発掘し取り組んでまいります。また、サポートセンターの移転が控えており、今後は面接のできる場所を確保していかなくてはならないと思っております。社会状況や地域課題の変化に応じた、臨機応変の対応が求められ、時勢にあった取り組みが必要であると考えます。当保護司会も非行や犯罪を少しでも減らせるよう活動を続けてまいります。

## 立川支部に 着任して



東京保護観察所  
立川支部長

土 公 千 鶴

本年四月一日付で立川支部長として着任し、気がつけば、もうすぐ「社会を明るくする運動」の強調月間を迎えようとしています。立川支部での勤務は今回が初めてで、まだまだ慣れないことがたくさんあります。しかし、以前、この近くに住んでいたことから、私にとって立川支部周辺は、非常に思い出深い場所です。この地で勤務できることを大変嬉しく思いながら、また、関係する皆様の御支援により楽しみなながら、日々の業務に取り組みさせていただ

ております。

さて、先日は府中地区保護司会の総会に出席させていただきました、ありがとうございます。市役所の方々に協力いただきながら、和やかな雰囲気運営されている会の様子を拝見し、府中地区保護司会の存在を非常に頼もしく感じた次第です。また、保護司の皆様の方から積極的に声がけいただきましたこと、保護司の皆様同士のつながりが、非常に濃密である様子を垣間見ることができましたことなど、とても印象に残る総会でした。コロナ禍においては様々な行動制限を受け、保護司活動においてもかなり御苦労されたことと思いますが、これからは少しずつ活動を復活させ、本領を発揮いただけますこと、心から楽しみにしております。

支部長としての勤務は初めてで至らぬ点も多いことと思いますが、皆様に府中地区のことをいろいろ教えていただきながら、府中地区の更生保護に少しでもお役に立てるよう努力してまいりますので、これまでと変わらぬ御支援御協力を賜りますようお願い、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

## ご挨拶



東京保護観察所立川支部  
保護観察官

田 代 万 由 子

本年四月から府中地区を担当させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

保護司の皆様方におかれましては、日頃から、処遇活動に加えて、社会を明るくする運動、学校を始めとする地域との連携等々、更生保護の諸活動のために御尽力くださり、ありがとうございます。特にこの数年は、処遇・地域活動が思うようになり、厳しい状況が続いております。絶やさず、工夫をしながら活動を続けてくださったことに、心から感謝申し上げます。

私は、初任地の名古屋保護観察所、

保護局での勤務を経て、昨年度立川支部に赴任いたしました。府中市を訪れるのは地区定期総会が初めてでしたが、府中駅前を通った時の、新緑のケヤキ並木の美しさがとても印象に残っています。余談ですが、私が学生時代を過ごした仙台市にも似たケヤキ並木があり、何となく初めて訪れた気がしないような、懐かしい気持ちを抱きました。

保護観察官としてのキャリアは、今年で四年目となりました。更生保護を志したきっかけを振り返ると、様々な生きづらさを抱えた人たちと社会との「つながり」をつくりたい、という想いがあったことを思い出します。保護司の皆様方と協力しながら、その人の生きる「生活」に寄り添っていけるといのが、更生保護のやりがいの一つであると考えます。

コロナ禍で社会が大きく変わり、犯罪の態様や処遇に関しても、より複雑に難しくなっている昨今、保護司の皆様方のお力が一層重要視されています。私も微力ではございますが、保護司の皆様方と共に、府中地区の更生保護のために邁進していきたいと思っておりますので、今後とも御支援、御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 令和五年度定期総会

総務部 西腰 美恵子

コロナ禍がひと段落して開かれた令和五年度の定期総会は、ルミエール府中にて、会員五十七名中三十九名出席、委任状八名を以て開催しました。高野律雄市長代理の小森孝生福祉保健部次長、四月に御着任された土公千鶴立川支部長、田代万由子保護観察官を来賓にお迎え致しました。第一号議案から第四号議案まで、それぞれ承認が得られました。今年度も保護司全員で事業を進めてまいりたいと思っております。ご協力よろしくお願ひします。来年度の総会も、皆様の笑顔にお会いできる事を願っております。

(本年度は改選期の為、役員、部の配属等については、三月九日開催の臨時総会において承認されました。)

## 令和五・六年度

### 組織紹介

敬称略 同役職内は委嘱年月日の順

### 〈理事・役員〉

- 会長 朝倉 俊夫
- 副会長 西谷 照代 (広報部担当)
- 副会長 市川 耕作 (研修部担当)
- 副会長 原田 耕彦 (地域活動部担当)
- 副会長 小澤 秀敏 (総務部担当)
- 会計 三浦 智恵美
- 会計 秋山 勤

- 理事 市川 一徳
- 理事 奈良崎 芳恵
- 理事 那須 史子
- 理事 杉浦 渉
- 理事 内藤 治
- 理事 若松 正子
- 理事 田中 陽子
- 理事 藤井 幸夫
- 理事 小澤 量
- 理事 伊藤 仁
- 理事 高野 佳子
- 顧問 高野 律雄 (府中市長)

### 〈各部〉

#### 総務部

- 部長 田中 陽子
- 副部長 内藤 治
- 書記 西腰 美恵子
- 書記 堺 美佐子
- 会計 北島 章雄・大沢美保子
- 部員 加藤 茂・高野 律雄
- 部員 佐藤 新悟・伊藤ゆきえ

#### 研修部

- 部長 那須 史子
- 副部長 市川 一徳
- 書記 室 惇子
- 部員 廣野 ひとみ
- 部員 伊藤 敏春・山本 裕章
- 部員 筒井 孝敏・高橋 淳二
- 部員 小澤 量・奈良 元俊
- 部員 小川 晴美・崎山 弘
- 部員 石塚百合子・関口 直子
- 部員 齋藤 巧

### 地域活動部

- 部長 杉浦 渉
  - 副部長 藤井 幸夫
  - 書記 古川 耕央
  - 会計 林 宏至
  - 部員 高野 佳子・野口 良子
  - 部員 伊藤 仁・森岡 潤家
  - 部員 前田久美子・矢島 千里
  - 部員 住崎 岩衛・坪井真由美
  - 部員 内藤 祐治・石井 智子
- (府中警察署生活安全課)

### 広報部

- 部長 奈良崎 芳恵
- 副部長 若松 正子
- 書記 田中 節子
- 部員 市川 勉
- 部員 赤塚 正坦・吉野 博文
- 部員 佐藤 政利・隆 ミワ子
- 部員 中込八重子・市毛 彰
- 部員 柊 昌一・市橋 正造

### 〈学校との連携委員会〉

- 委員長 杉浦 渉 (小学校担当)
- 副委員長 藤井 幸夫 (五中)
- 副委員長 伊藤 仁 (浅間中)
- 書記 市川 勉 (八中)
- 会計 若松 正子 (四中)
- 委員 朝倉 俊夫・西谷 照代
- 委員 市川 耕作・原田 勝彦
- 委員 小澤 秀敏
- 委員 林 宏至 (一中)
- 委員 那須 史子 (二中)
- 委員 住崎 岩衛 (三中)
- 委員 森岡 潤家 (六中)

### 〈サポートセンター運営委員会 役員〉

#### 令和五年度

- センター長 加藤 茂
- 副センター長 市川 耕作
- 総務(統括) 小澤 秀敏
- 総務 西谷 照代
- 総務 原田 勝彦
- 総務 那須 史子
- 総務 杉浦 渉
- 総務 若松 正子
- 会計 堺 美佐子

### 〈東京都薬物乱用防止指導員〉

- 秋山 勤

### 〈社会貢献活動担当保護司〉

- 原田 勝彦
- 古川 耕央

### 〈府中市社会福祉協議会〉

- 理事 朝倉 俊夫

### 〈府中市要保護児童対策地域協議会〉

- 委員 朝倉 俊夫

### 〈更生保護施設紫翠苑〉

- 評議員 高野 佳子
- 評議員 小澤 秀敏

### 〈ICT化推進担当保護司〉

- 森岡 潤家・市川 耕作

### 〈事務局〉

- 府中市福祉保健部
- 地域福祉推進課社会福祉係
- 佐藤 詩織・桑 名聖人

### 研修部の活動

研修部長 那須 史子

研修部は、新型コロナウイルスの5類移行を受けて、日帰り研修を企画しています。今回は、施設研修のみですがそろりそろりと進めていきたいと思います。

I期～III期の定例研修では、今年度府中地区担当の田代万由子保護観察官に各テーマに沿った研修をしていただきます。

また、府中地区ならではの実務研修では、ハローワークの佐藤氏に「就労支援事業について」お話をうかがいます。昨年好評だったSST研修第2弾も準備していますのでお楽しみに。部員15名で、ゆるやかに取り組んで参りますので皆様、どうぞご参加下さい。

### 総務部の活動

総務部長 田中 陽子

今年度は会長をはじめ各部のメンバーが大きく変わりました。新しく部長に任命されたことに意義を感じ、見直しの時期ととらえ新しいメンバーと新しい発想で部運営規程に基づき総務部の仕事に取り組んでまいりたいと思います。5月の総会が終わりましたが反省するところも多々あり、次年度に向けて丁寧に議案書の確認や委任状の見直し等に取り組んでまいります。また、総務部は保護司会運営のまとめ役でもあり、柱でもあるので、会長をはじめ本部役員と一枚岩で課題に取り組み部員同士で連携を図り活動に努める所存でございますので皆様のご協力よろしくお願いいたします。

## 部長挨拶

### 広報部の活動

広報部長 奈良崎 芳恵

広報部は、年2回「府中地区保護司会だより」を発行しています。朝倉新会長の下、メンバーと53号発行に向けて活動を始めました。各ページ担当者を決め原稿チェック、写真の選定、校正、印刷所とのやり取りなど、全部員で協力しながら、より良い広報紙に仕上げていきたいと思っています。

また、紙面の充実に向け、忌憚なくご意見ご要望をお寄せいただけたら幸いです。

私にとっては久しぶりの広報紙作りですが、寄稿者の想いのこもった文面を正しく伝えていきたいと思っています。

今後も広報部として、原稿の依頼をさせていただきますが、皆さまにはご協力いただけますよう宜しくお願い致します。

### 「枕詞なし」の社会状況下で

地域活動部長 杉浦 渉

地域活動部はもとより保護司会にとっても、「社会を明るくする運動」は年間最重要のキャンペーン事業です。

しかし、過去3年間はコロナ感染症防止の観点から活動が中止に追い込まれたり、質と量の双方の面で様々な制約を強いられました。

この5月、コロナが5類感染症に移行となり、社会的な行動規制が緩和されたことに伴い、諸活動方針から「コロナ禍のために」という枕詞も徐々に外されることになりました。

では、3年間の忍従は単なる空白だったのでしょうか。いや、この忍従こそ新たな活動を胚胎する貴重な時間だったと言えます。「枕詞なし」の活動の意義と質を問い直す、たくさんのヒントを残してくれたのです。

### 会長職を終えて

府中地区保護司会

前会長 高野 佳子

令和元年四月より令和五年三月迄の二期四年間、会長職を務めさせていただきました。未熟な点、至らぬ点が多々ありましたが、会員皆様からご理解とご協力をいただき、また観察所、市役所からのご支援を賜り何とか職務を全うすることができました。心より感謝申し上げます。

在任中、新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が発令され、日常生活、経済活動に甚大な影響がありました。会の活動も自粛を余儀なくされ、書面での総会を三年間行いました。そんな状況下でしたが、オンライン形式の第7ブロック協議会、理事会・研修会等もリモート開催を成し遂げました。皆で知恵を出し合い、団結し、活動の歩みを止めることなく、貴重な経験を重ねることができ、素晴らしい財産となりました。今後は相談役としてサポートできればと思います。

朝倉新会長のもと、府中地区保護司会がますます発展し、皆様がやり甲斐を持ってご活躍できることを祈念いたします。

# 第73回 社会を明るくする運動

## 街頭広報活動（非接触型）

新型コロナウイルスの位置付けが5類感染症となり、様々な社会活動が拡がりを始めました。しかし、今年も街頭広報活動ではコロナ感染拡大第9波の兆しや異常気象による熱中症の危惧もあり、非接触型での活動を継続しました。懸垂幕、ポスターや映像配信、車両掲出等の広報活動と共に、「社会を明るくする運動」啓発グッズを各中学校の協力を得て、2000名余りの中学2年生に配付しました。これからの社会を担う中学生にも安全で安心な地域社会を築くため、社会に目を向け身近な人と共に自分たちの生活をより良くしてほしいと、願いも込めで行いました。

地域活動部 副部長 藤井 幸夫



### 府中市推進大会



生きづらさを生きていく

ことへの支援とは

7月11日推進大会報告

地域活動部長 杉浦 渉

式典後の講演は社会福祉法人府中えりじあ福祉会の中川さゆり氏。「精神障がい者と地域とのつながり」と題したお話の中で、精神疾患と障がいとは異なるとした上で、精神障がい者の抱える生きづらさを理解し、地域が寄り添うことの大切さを説かれた。このことは立ち直りを支援することに通底しており、深く共感した。

中央文化センターひばりホール

午後3時から午後4時30分

参加者名100名（保護司37名含む）



講演者：中川さゆり氏



# 地域に開かれた一中の新校舎見学

研修部 室 惇子

令和5年7月19日実務研修を実施しました。

本年3月に新校舎が完成した府中市立府中第一中学校への訪問です。

山本校長先生より、最近の府中の中学生の様子をお話しいただいてから、尾石副校長先生のご案内で校舎内を見学しました。

入ったところからまず高い天井、映画のシーンのような広い階段、今までの学校というイメージと違う素晴らしい空間に驚きと感動が。

各教室の机は今までのものより大きくタブレットをゆつたり置いて授業が受けられ、机と椅子の高さも調節可能、また教室の三面は黒板も含



府中市立府中第一中学校建物外観



エントランス

めて全てプロジェクターの映像が映せるようになっていたとのこと。

未来へ向かっての教室であり随所に工夫が施されていました。

調べることに、自由に学習が出来るフリーなスペース、廊下にもちよこつと語り合ったり出来る机や椅子が設置されていたり、広い場所があったからこそ出来た空間をフル活用しているのが感じられました。

そして極めつけは地域の方々が使ええる教室。そこは学校の管理から離れて休日にも地域の方々々が活動でき、学校には迷惑をかけないという木の扉がありました。また、先生のお話の中で災害時、プロパンガスで空調を確保出来るよう工夫されていることも伺いました。

全てが新しい時代へ向けての新校舎の誕生と思いました。



## 移転に向けて

サポートセンターふちゅう

運営委員 奈良崎 芳 恵

府中地区保護司会が更生保護活動を行う拠点として、平成二十七年四月七日「サポートセンターふちゅう」が開所されました。開所にあたり、当時の先輩保護司の方々のご苦労やご尽力に心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。

以来、八年余りが経過しました。拠点が開設されたことで、これまで以上に活動がし易くなり、保護司間の交流や情報交換が活発化するなど、大切な欠かせない場所となりました。

また保護司会とともに、更生保護女性会でも役員会や部会、様々な会議等で有効活用されてきました。「サポセン」では、新任研修会やコロナ禍ではオンライン研修会を行ったり、現在も二人体制で行っている駐在や、広報紙「サポセン情報」を発信したりと企画・運営にも力を入れてきました。

地域事情もあり、対象者との面接には使用できませんでしたが、これまで地域の皆さまのご理解ご協力のおかげで、活動拠点としてこの場を

使用することができ、本当に感謝の思いでいっぱいです。

残念ながら建物老朽化などの課題もあり、今年度いっぱい、この場所から移転することになります。様々な活動でフル活用してきた「サポセン」ですので、愛着もあり名残惜しいのですが、加藤茂センター長を中心に、移転が無事スムーズに行われるよう、これから準備を進めていきたいと思っております。

移転先でも犯罪予防活動や地域における再犯防止の新拠点として、地域に必要とされるサポートセンターを目指し頑張つてまいります。

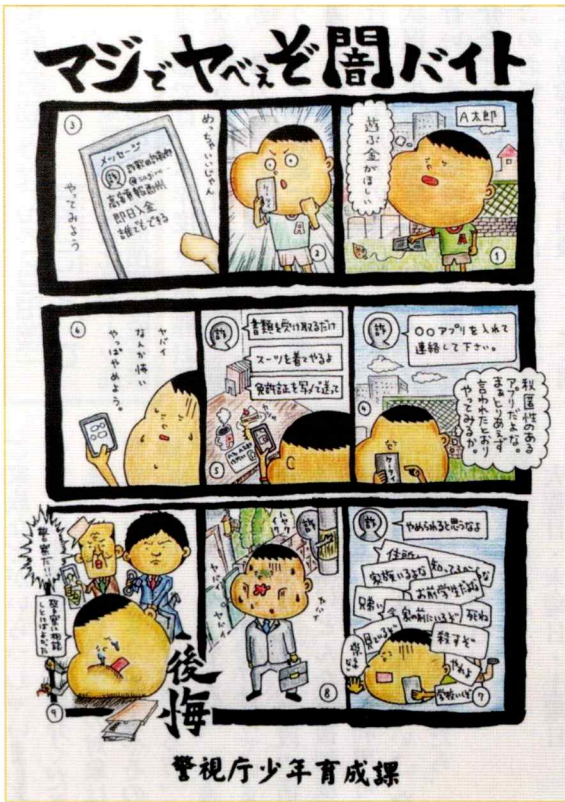


「サポートセンターふちゅう」建物外観

# 保護司特別研修

藤井 幸夫

本年度特別研修「特殊詐欺について」が6月23日(金)東京保護観察所にて開催されました。警視庁少年育成課(少年センター主査)から特殊詐欺の現状と闇バイト対策の講義、加担する若者を描いたDVDの視聴。本庁統括保護観察官から特殊詐欺の保護観察対象者の処遇の在り方、しよく罪指導プログラム等留意点の説明を受けました。特殊詐欺は、オレオレ詐欺等、様々な手口で金品を騙し取り、昨年も被害者は70歳以上が9割、被害額も多大了。その多くは「主犯・指示」「架け子」「犯行準備」「出し子・受け子」「リクルーター」と役割を連携させた組織的な犯罪で、電話やSNSで繋がった互いに見知らぬ犯罪集団です。金欲しさに闇バイトに嵌り加担する若者の増加も危惧します。対象者については、研修での犯罪の罫や仕組みを理解させ、しよく罪指導プログラムも活用して更生に努めていきたいです。



特別研修配布資料より

## 府中警察だより



生活安全課少年第一係長

石井 智子

皆様、「メン地下」「推し活」という言葉をご存知でしょうか。

「メン地下」とは、メンズ地下アイドルの略で、「会いに行けるアイドル」として劇場ライブを中心に活動する男子アイドルグループを指します。「メン地下」は「無料ライブ開催」といったうたい文句で勧誘し集まった客に「チェキ撮影」「デート」等の有料オプションを勧めて収益を得ています。

「推し活」とは、自分にとってイチオシの「メン地下」タレント(いわゆる推し)を応援する活動です。

今、高校生や中学生の過剰な「推し活」が問題になっています。

高額なオプションを利用すると推しから優しい言葉を掛けてもらえるため、家のお金を持ち出したり、パパ活や援助交際をしたりして、「メン地下ライブ」に入り浸り犯罪に巻き込まれる少年が増えているのです。

府中警察署では、各種会議や非行防止教室等の機会と捉えて「メン地下」「推し活」の実態と危険性を説き、被害の未然防止・非行防止に努めています。

## 府中地区保護司会コラム⑰

伊藤 仁

先日、2年近く使っているiPhoneが、突然電源が入らなくなり、修理に出すと、3万? ぐらいは覚悟かなと、家族に相談するとAndroidにしたら安くて使いやすいよと、軽く流されてしまいました。私とすると使い慣れているし、iPadと同期しているし、リンゴがかっこいいし! などと自分にとって必要なかを頭が勝手に理由を探し始め、「それ、本当に必要? 」と自分の主張に対して、意見を言う人々に反論しようとなります。最終的には、「なるほど。それはそうした方がいいね」と自分の意見に賛同してほしい。こういった心理。

状況などは違えど、同じようなことを思ったことがあるのではないのでしょうか。要は、いかに理屈や理論が正しかったとしても欲求や感情のほうが強く作用するということですね。人は、感情で物を買ひ、「理屈」でそれを正当化する。心に留めておきたいものです。

東京都  
犯罪お悩みなんでも相談  
なんでも相談  
03-6907-0511  
メール相談はこちら  
万引、暴力など、あらゆる犯罪に関する相談を受け付けます。  
令和5年4月1日(土)～令和6年3月29日(金)  
受付時間：平日 午前9時～午後5時  
火曜日・木曜日・土曜日(祝日、年末年始を除く) 午前9時～午後5時  
※ 緊急な場合は24時間受付可能  
※ 相談料は無料です。お金のことで、お悩みに応じてほしい、お困りなご家庭には、お金の相談も受け付けています。

「犯罪お悩みなんでも相談」窓口について

東京都生活文化スポーツ局 都民安全推進部都民安全課

東京都では、本年度も「犯罪お悩みなんでも相談」窓口を設置して、万引き、暴力などの犯罪行為をしてしまう人などを対象に、あらゆる犯罪に関する相談を受け付けています。社会福祉士などの専門職がご本人の状況や生活環境等のアセスメントを行い、適切な助言や、支援機関の紹介を行います。

このお悩み相談窓口は、平成30年度に「高齢者万引き相談」として開設しました。翌、令和元年度には、あらゆる犯罪を対象とした「高齢者よろず犯罪相談」、令和2年度からは年齢や罪種を問わない「犯罪お悩みなんでも相談」と、対象とする罪種や年齢の幅を少しずつ拡大しながら事業を実施してきました。

皆様の周りに、犯罪をしてしまうことに関して悩みを抱えている方や

ご家族などがいらつしやいましたら、ぜひこの相談窓口をご紹介ください。また、お悩み相談窓口の対象は、犯罪行為をしてしまうご本人やそのご家族に限らず、「支援に携わる方」も対象となっており、もちろん、保護司の皆様からの相談も受け付けています。保護司の皆さんが、普段の活動の中で、「地域にどんな支援制度があるのか分からない。」「利用可能な支援機関・団体を知りたい。」など、お困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。

東京都生活文化スポーツ局  
都民安全推進部 都民安全課  
直通：03-5388-2265

【問合せ先】  
東京都生活文化スポーツ局  
都民安全推進部 都民安全課  
電話相談：03-6907-0511  
メール相談(東京都ホームページ)「犯罪お悩みなんでも相談」  
https://www.resanet-tokyo.metro.tokyo.lg.jp/soudan/

【受付日・時間】  
火曜日・木曜日・土曜日  
(祝日・年末年始を除く)  
午前9時から午後5時まで

【対象】  
都内在住の、万引き、暴力などの犯罪行為をしてしまうご本人やそのご家族、支援に携わる方など、あらゆる犯罪に関する悩みをお持ちの方

【受付方法】  
電話相談  
メール相談

「不良少年の更生」今は昔：無報酬で重い負担、改革不可避の保護司制度との報道があった。(5/16産経)

対象者が少年から成人へ移り、覚醒剤常習者が多くなり先が見えない自宅面接するのは負担だ。再犯防止の広報など「面接以外の業務」に追われ、平日の昼間の活動が多いので、高齢者が活動の担い手とならざるを得ない等の課題がある。

法務省が立ち上げた検討会では、新任・再任の上限年齢の見直し、活動内容を限定する担当制の導入、推薦に限られている選任方法の見直し、報酬制の導入などが議論されるようだ。

高齢化したって大丈夫！ 報告書は、H@で提出、記憶の悪さは小忠実なメモでカバーして、平日昼間の活動も厭わない。日本中高齢化して、人手不足なんだから！

退任保護司  
長い間ありがとうございました  
内藤 治  
令和五年八月三十一日付

活動日誌抄

- 4月
  - ・杜明実務者会議(リモート会議)
- 5月
  - ・多摩連監査会・多摩連常任理事会
  - ・府中地区更生保護女性会総会
  - ・社会福祉協議会理事会
  - ・紫翠苑評議員会
  - ・事務担当者運営連絡協議会(リモート会議)
- 6月
  - ・東京保護司代表者協議会
  - ・府中地区桐友会総会
  - ・東京都保護司会連合会
  - ・保護司候補者検討協議会
  - ・社会福祉協議会理事会
  - ・保護司特別研修
- 7月
  - ・多摩連代表者協議会理事会
  - ・府中市要保護児童対策協議会
  - ・第7ブロック保護司組織運営連絡協議会準備会
  - ・多摩連各支部
  - ・(総務)研修・地域活動・広報
  - ・関東管内新任地区保護司会
  - ・会長研修(リモート会議)

編集後記

市川 勉  
「不良少年の更生」今は昔：無報酬で重い負担、改革不可避の保護司制度との報道があった。(5/16産経)

対象者が少年から成人へ移り、覚醒剤常習者が多くなり先が見えない自宅面接するのは負担だ。再犯防止の広報など「面接以外の業務」に追われ、平日の昼間の活動が多いので、高齢者が活動の担い手とならざるを得ない等の課題がある。

法務省が立ち上げた検討会では、新任・再任の上限年齢の見直し、活動内容を限定する担当制の導入、推薦に限られている選任方法の見直し、報酬制の導入などが議論されるようだ。

高齢化したって大丈夫！ 報告書は、H@で提出、記憶の悪さは小忠実なメモでカバーして、平日昼間の活動も厭わない。日本中高齢化して、人手不足なんだから！

広報部

部長	奈良崎芳恵	佐藤 政利
副部長	若松 正子	隆 ミワ子
書記	田中 節子	中込八重子
会 計	市川 勉	市毛 彰
部 員	赤塚 正坦	柊 晶一
	吉野 博文	市橋 正造

題字は高野市長の揮毫によるものです  
表紙の写真「くらのみ祭り」  
提供 府中観光協会